

【認定】

特定非営利活動法人 SEEDS Asia

2020 年度事業報告書

防災で未来をつくる



## 目次

ご挨拶 .....	2
<b>2020 年度事業計画の達成状況</b> .....	3
要約.....	3
① 防災/環境教育・啓発 .....	4
② ツールの開発 .....	5
③ 防災研究・調査促進 .....	5
④ より安全な建設の推進 .....	6
⑤ 防災指導員育成 .....	7
⑥ 防災管理体制強化促進 .....	7
⑦ 緊急支援・避難者支援 .....	8
⑧ コミュニティ防災促進.....	8
<b>成果物</b> .....	10
<b>講師派遣実績</b> .....	11
<b>広報タスクフォース</b> .....	13
<b>国別・事業別報告</b> .....	14
1) ミャンマー ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業（第 3 年次） .....	14
2) ミャンマー学校における津波避難訓練事業（第 2 フェーズ） .....	15
3) フィリピン セブ州における学校の防災管理推進支援事業 .....	17
4) バングラデシュ ダッカ市における住民の災害対応能力向上事業第（第 1 年次） .....	18
5) 日本 地域資源を活かした防災及び持続可能な社会の担い手育成ツールづくり事業 .....	20
6) 日本 「With コロナ時代」の復興まちづくり支援事業.....	21

## ご挨拶

2020年度は、続く新型コロナウイルスが猛威をふるう中、熊本県を中心として被害が発生した令和2年7月豪雨を筆頭に、コロナ禍の気象系災害という地球規模の脅威に晒された年となりました。さらに、ミャンマーでのクーデター等、各地で政情不安が続き、筆舌尽くし難い心痛の中で赴くことのできないジレンマを強く抱えた年でもありました。このような多事多難が続く中、団体の趣旨にご賛同いただき、様々な形で応援・ご協力・ご支援頂いている皆様に、この場をお借りして改めて深く感謝を申し上げます。

国外では、コロナ禍で一部活動に変更を伴いながらも昨年度の事業計画に基づき、フィリピンで学校防災管理支援事業が無事終了し、ミャンマーではヒンタダ地区を中心とする地域と連携した包括的学校の防災支援事業、ラプタ地区での津波の学校防災事業、民間企業との耐震の啓発に関わる連携事業、バングラデシュにおいては北ダッカ市における学校を中心とした地域の災害対応能力向上支援事業を展開しました。確実な成果を以て事業を進めることができたのは、今まで事業運営に携わってきた現地職員が牽引役となり、オンラインによるリモート研修という新しい方法にも柔軟に対応し地域住民や教員の参画を促進できたことにあり、長年の蓄積されてきた現地拠点のもつ人的ネットワークとノウハウが功を奏しました。これは、取りも直さず継続的な活動をご支援頂いてきた皆様の賜物であります。

一方、本部職員の出張ベースで進めていた国内案件では、コロナ禍におけるリモートの可能性と同時に、その限界を感じた一年でもありました。特に、令和元年東日本台風（台風19号）で被災した長野県長野市長沼地区において、SEEDS Asiaは長沼地区復興対策企画委員会へのタブレット端末の提供を含む通信環境の整備と共に、過去の災害事例から学ぶ「これからのまちを考える復興リレー講座（全8回）」を専門家の皆様にご協力頂きながらオンラインで実施して参りました。しかし、コロナ禍で拡大するデジタルディバイド（ICT活用の可否による情報格差）の現実を前に、SDGsで掲げられている「だれも取り残さない」理念とのギャップを強く認識したことも事実です。コロナ禍で集まることがリスクとなる中、住民間の協議とその合意形成のあり方はますます困難を極めています。安全、歴史、景観、環境等、その地で暮らす方々にとって妥協や取り替えることのできない大切な要素をどのようなバランスで未来に遺すのか、世帯単位の結論や多数決の危うさを認識し、一人一人が持っているまちへの想いをできるだけ可視化し共有することが、益々重要になっている段階にあります。私たちは、現地拠点をベースとして「いまここ」の時空間を共有することによって、多様な主体と連携し、まちの環境や匂いに交感しながら、誰もが参画できる方法と選択を増やし、まちの未来像を見出す応援ができればと思っています。

SEEDS Asiaは2021年9月に設立15周年を迎えます。SEEDS Asiaが大切にしてきた「5つのつながるアプローチ：①政策と行動 ②科学と実践 ③神戸と東北、全国/アジア ④環境と暮らし ⑤過去・現在・未来」を通じて、蓄積されてきた、ローカルな魅力を引き出すグローバルな視点を活かし、「with/post コロナ時代」の中でも誰もが災害に向き合う時代の人づくり・まちづくりのデザインを、これからも皆様と一緒に考え、励んで参りたいと思います。

これからも、引き続き皆様のあたたかいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

SEEDS Asia 事務局長  
大津山 光子

## 2020 年度事業計画の達成状況

### 要約

2016 年の創立 10 周年に際し策定された「SEEDS Asia 2030 年プラン」では、持続可能な開発目標（SDGs）に相関性を持つ仙台防災枠組の 4 つの優先行動に基づき、日本を含めたアジアにおける経験や知見を活かし発展させる 8 つの重点活動を推進することを明確化しました。2019 度には同プランのレビューをおこない、2030 年を見据えた目標の再設定を協議しました。8 つの重点活動においてはできる限り数値目標を設定し、事業計画を立案し実施して参りましたので、2020 年度の活動について以下のとおり報告いたします。

#### ①防災/環境教育・啓発活動

目標 3,160 人に対し計 1,428 人の実績となりました。

#### ②ツールの開発

日本において各事業地のベースとなるツールの開発を目標としており、丹波事業にて 1 つのカードゲームを作成したほか、ミャンマーでは安全な建設に係る動画を開発しました。

#### ③防災研究・調査促進

事業の効果や教訓、アジアの共通課題についての研究論文・出版物を公表することを目標としていましたが、今年度は論文発表実績がなく、一方で長野県長野市における事業を通じ復興まちづくりの専門家等との連携が構築されました。

#### ④より安全な建設の推進

有事の教育継続を可能にする避難施設の普及と SEEDS Asia のミニマムスタンダードの基盤を整備することを目標とし、ミャンマーの外務省事業（第 3 年次）にて学校兼シェルターの施設の建設が進むと共に、受託事業にて簡易耐震診断に関するビデオが完成しました。

#### ⑤防災指導員育成

学校・地域・行政における防災の担い手 98 人の育成を目標としていたところ、各事業地で合計 85 人を育成することができました。

#### ⑥防災管理体制強化促進

「学校防災計画における国際基準を満たした SEEDS Asia ミニマムスタンダードの基盤を確立する」ことを目指しており、国際基準を考慮した学校防災計画が 2 事例策定されました。

#### ⑦緊急支援・避難者支援

SEEDS Asia テクニカルアドバイザー設置の基盤を進め、同時に緊急支援の発動基準が定められました。

#### ⑧コミュニティ防災促進

未災地でのコミュニティ防災推進を 3 か所で実施しました。

以上のとおり、一部の重点活動において目標を達成することができませんでした。2020 年度は新型コロナの感染拡大を受け事業規模を縮小せざるを得なかった一方で、オンライン研修や協議を推進することで新たなアプローチを見出すことができた年でもあります。持続化を図るツールや成果物も作成されました。しかし、人員の不足により断念せざるを得ない活動があったことも事実です。2020 年度には理事・アドバイザー・事務局長の有志で構成される「[広報タスクフォース](#)」を中心に作成した団体パンフレットを印刷しました。2020 年 2 月の認定 NPO 法人格取得を機に、今後、より多くのステークホルダーとの連携を通じて計画の実現を目指したいと思います。

## ① 防災/環境教育・啓発

2030 プラン	2030 年までに、SEEDS Asia はアジアにおいて、開発したツールを活用して、5 万人への防災教育機会を提供します。	
2020 年度	目標	実績
全体	<b>3,160 人への防災教育や啓発の機会を提供する</b> (日本 60 人、ミャンマー1,000 人、フィリピン 100 人、バングラデシュ 1,000 人、インド 1,000 人)	<b>1,428 人への防災教育・啓発機会を提供した</b> (日本 647 人、ミャンマー294 人、フィリピン 0 人、バングラデシュ 487 人)
ミャンマー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移動式防災教室による啓発プログラムの実施</li> <li>● 防災活動センターによる啓発プログラムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移動式防災教室による啓発プログラムの実施、防災活動センターによる啓発プログラムの実施 (0 人)</li> <li>● ワーボチーボ村及び小学校での防災教育 (294 人)</li> </ul>
フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移動式防災教室による啓発プログラムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移動式防災教室による啓発プログラムの実施 (0 人)</li> </ul>
バングラデシュ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災意識啓発キャンペーンの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災意識啓発キャンペーンの実施 (キャンペーン向け動画作成委員会 8 人)</li> <li>● モデルアカデミー校生徒への防災教育、学校防災委員会への基礎研修の実施 (497 人)</li> </ul>
日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 丹波市スタディツアーの実施</li> <li>● 鳥羽市の地域文化の継承・防災教育支援</li> <li>● 大学やシンポジウム、団体イベントでの講義・講演活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 丹波市スタディツアーの実施 (3 人)</li> <li>● 大学やシンポジウム、団体イベントでの講義・講演活動 (229 人)</li> <li>● 長野市これからのまちを考える復興リレー講座 (415 人)</li> </ul>
インド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災活動センターによる啓発プログラムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災活動センターによる啓発プログラムの実施 (0 人)</li> </ul>

2020 年度の①**防災/環境教育・啓発**では、目標 3,160 人に対し計 1,428 人の実績 (45%) となり、目標を達成できませんでした。新型コロナの感染拡大を受け各事業地での集会在り阻まれたことが主な要因です。国別では、ミャンマーではヒンタダ地区ワーボチーボ村における村の防災委員会及びワーボチーボ小学校の教職員を対象としたオンライン研修で累計 294 人に対し防災/環境教育と啓発をおこないました。バングラデシュでは、防災意識啓発キャンペーンは実施できませんでしたが、その下準備としてキャンペーン動画の開発に向けた作成委員会を結成し、協議を開始しました。また、生徒に対する防災授業が実施されました。日本・兵庫県丹波市では新型コロナの状況に鑑みてスタディツアーを多く開催することはできませんでしたが、3 人が参加しました。また、講師派遣を通じ、229 人に対する啓発・教育が達成されました。また、長野県長野市では復興まちづくり支援としてオンラインのリレー講座を開催し、YouTube 配信視聴者を含め 415 人が参加して下さいました。2030 プランに基づく防災/環境教育・啓発の目標人数は 5 万人であり、2020

年度実績の同プランに対する達成率は2.8%です。2019年度の実績は13%だったため、累計は達成率が15.8%となりました。

## ② ツールの開発

2030 プラン	2030 年度末までに、SEEDS Asia は事業地全てにおいて現地で継続的な運用（資金調達/現地予算化）を可能にする防災啓発ツールを開発し、継続・改善システムを構築します。	
2020 年度	目標	実績
全体	<b>日本において各事業地のベースとなる防災教育・啓発のツールを開発する</b>	<b>日本・丹波市事業及びミャンマー事業において防災教育・啓発のツールを作成した</b>
ミャンマー	●「建設の心得」作成	●「建設の心得」未完 ●簡易耐震診断方法・普及に関わるビデオ作成
フィリピン	●該当なし	●該当なし
バングラデシュ	●該当なし	●該当なし
日本	●アジアで横展開していくための SDGs について学ぶツールづくり（日本）	●「災害時助け合いゲーム」作成

2020 年度の②ツールの開発では、国内でまず全ての事業地のツール開発のベースとなるものを作成することを目標としていました。丹波市事業で、災害経験を踏まえ助け合い及び備えの大切さを学ぶことを目的とした「災害時助け合いゲーム」を開発し、本目標は達成しました。今後は他地域での応用を検討する必要があります。また、ミャンマー事業において学校兼シェルター建設を踏まえた「建設の心得」の作成を計画していましたが、新型コロナ感染拡大やクーデターの影響で建設そのものに遅れが出ていることから、来年度の作成を目指すこととします。一方、同国での簡易耐震診断方法・普及に関わるビデオを受託作成し、2 つのツールが開発されたため、2020 年度目標の達成率は 200%です。2030 年プランの達成に向けて、これらの各事業地のツールを持続的に活用・改善するシステムの構築、横展開が求められます。

## ③ 防災研究・調査促進

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は アジア共通の課題あるいは、各国の取り組みの効果や教訓に関連する研究論文を最低 10 本は発表し、SEEDS Asia の学術的貢献を図ります。	
2020 年度	目標	実績
全体	<b>事業の効果や教訓、アジアの共通課題について研究論文・出版物を発表する</b>	<b>発表なし</b>
ミャンマー	●各事業の効果的な実施に関わる研究・学術界及び科学研究機関との連携	●実績なし
フィリピン	●各事業の効果的な実施に関わる研究・学術	●実績なし

	界及び科学研究機関との連携	
バングラ デシュ	●各事業の効果的な実施に関わる研究・学術界及び科学研究機関との連携	●実績なし
日本	●各事業の効果的な実施に関わる研究・学術界及び科学研究機関との連携	●長野市これからのまちを考える復興リレー講座の開催による専門家との連携の促進

2020年度の③**防災研究・調査促進**では、各事業の効果的な実施に係る研究・調査の発表を目標としていましたが、実績は0でした。要因として、各事業の取り組みを研究や調査に昇華する時間がなかったことが挙げられます。2030年プランでは研究論文・出版物を10発表することになっており、今年度の実績は同プランに対し達成率が0、2019年度からの累計は20%となりました。今後は、2030年プランの達成に向けて、各事業の成果を測る共通の指標の開発及び事業地・テーマの研究内容を示したロードマップの作成が必要だということが明確になりました。

#### ④ より安全な建設の推進

2030 プラン	2030年までに SEEDS Asia は質の高い学校・避難所を建設・改善/整備することによって、避難場所の改善を行うと共に、政策的貢献をおこないます。	
2020 年度	目標	実績
全体	<b><u>教育継続を可能にする避難施設の普及と SEEDS Asia のミニマムスタンダードの基盤を整備する</u></b>	<b><u>ミャンマーにおける 2 つ目の学校兼シェルターと避難所ホールの建設並びに備品の整備が進んだ</u></b>
ミャンマー	●学校兼シェルター/避難所ホール建設実施 ●「建設の心得」の完成	●ワーボチャーボ村の学校兼シェルター及び避難所ホール建設（途中） ●「建設の心得」未完 ●簡易耐震診断方法・普及ビデオ作成
フィリピン	●該当なし	●実績なし
バングラ デシュ	●該当なし	●実績なし
日本	●該当なし	●実績なし

2020年度の④**より安全な建設の推進**においては、教育継続を可能にする避難施設の普及と SEEDS Asia のミニマムスタンダードの基盤を整備することを目標としていました。そのため、事例となるミャンマーの外務省事業（第3年次）における2つ目の学校兼シェルター施設建設を進めましたが、新型コロナウイルスの影響で遅延しました。そのため、建設の実績を踏まえた「建設の心得」も未完となりました。2つの事項（建設及び「心得」）のうち、建設のみ70%の進捗であることから、今年度の目標に対する達成率は35%となります。2030年プランにおいては10の学校兼シェルター建設を目標としているため、前年度のナバーゴン村小学校に引き続き1.7校完成した今年度の、プランの累計達成率は17%です。また、「②ツールの開発」で述べた通り、ミャンマーにおける簡易耐震診断方法・普及ビデオの作成で安全な建設の推進に貢献しました。

⑤ 防災指導員育成

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は各国の状況に応じた防災計画（学校・地区・行政など）の担い手 1.5 千人を育成します。	
2020 年度	目標	実績
全体	<b>学校・地域・行政の担い手 98 名を育成する</b>	<b>学校・地域・行政における防災の担い手 85 名を育成した</b>
ミャンマー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校防災指導員の育成</li> <li>● コミュニティ防災指導員の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワーボチーボ村・ワーボチーボ小学校の防災指導員を育成（22 人）</li> <li>● ラブタ地区の津波防災指導員養成講座修了者（32 人）</li> </ul>
フィリピン	● 該当なし	● フィリピン教育省の防災指導員の能力向上（15 人）
バングラデシュ	● コミュニティ防災指導員の育成	● モデルアカデミー校の防災委員会メンバー及び防災指導教員を育成（16 人）
日本	● コミュニティ防災指導員の育成（長野）	● 実績なし（地区復興計画の策定に向けた支援のみ実施）

2020 年度の⑤**防災指導員育成**では、98 名を目標としていました。これに対し、ミャンマーではワーボチーボ村及びワーボチーボ小学校の教職員に対するトレーニングを実施し修了試験に合格した防災リーダー 22 人、ラブタ地区の津波防災指導員養成講座修了者 32 人、フィリピンでは各地区のパイロット校における学校防災マニュアルの作成を通じ教育省職員を 15 人、さらにバングラデシュでは対象校モデルアカデミーで設立した防災委員会への基礎研修と防災指導教員へのワークショップ等を通じ 16 人、育成しました。2020 年度の目標に対する達成率は 87%となりました。2030 年プランでは 1,500 人の防災指導員を育成することを目標としており、この目標に対する今年度の達成率は 5.6%です。また、2019 年度からの累計達成率は 40.6%となりました。

⑥ 防災管理体制強化促進

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は各国の状況に応じた学校防災計画・地区防災計画のひな型を状況に応じて 150 か所で作成・カスタマイズすると共に、対象地・区域の普及 100%を目指します。	
2020 年度	目標	実績
全体	<b>学校防災計画・地区防災計画における国際基準を満たした SEEDS Asia ミニマムスタンダードの基盤を確立する</b>	<b>学校防災計画のミニマムスタンダードの基盤としてフィリピンにおける「学校防災管理チーム運営指針」を確立</b>
ミャンマー	● 学校防災計画作成	● ワーボチーボ村防災計画作成
フィリピン	● 該当なし	● 該当なし
バングラデシュ	● 該当なし	● モデルアカデミー校の学校防災ガイドライン作成

日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校防災計画作成（鳥羽）</li> <li>● 地区防災計画につなげる復興計画（長野）</li> </ul>	● 実績なし
----	---	--------

2020 年度の⑥防災管理体制強化促進においては、「学校防災計画・地区防災計画における国際基準を満たした SEEDS Asia ミニマムスタンダードの基盤を確立する」ことを目指しており、2019 年度に完成したフィリピン事業で作成した「学校防災管理チーム運営指針」に基づきミャンマー及びバングラデシュの対象地でそれぞれ村・学校防災計画を策定しました。フィリピン事業で策定したスタンダードを用いて他事業地での活用に向けた基盤とすることができました。2030 年プランでは学校防災計画・地区防災計画を 150 か所で作成・カスタマイズする目標となっており、今後は国内外で地区防災計画にも取り組むことが目指されます。

⑦ 緊急支援・避難者支援

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は、事業を展開したことのある国で甚大な被害が発生した場合、緊急支援を実施できる人的ネットワークと金銭的リソースを担保し、迅速な緊急支援を展開します。	
2020 年度	目標	実績
全体	<b>各事業実施国で積極的に事業実施に関与し、防災や緊急時の活動の担い手として、資金や人的リソースを集約できる人材を任命・ネットワーク化するための基盤を整備する</b>	<b>SEEDS Asia テクニカルアドバイザー設置の規約を定め、任命した</b>
ミャンマー	● 該当なし	● 実績なし
フィリピン	● 該当なし	● 実績なし
バングラデシュ	● 該当なし	● 実績なし
日本	● SEEDS Asia テクニカルアドバイザーの組成と協議の開始	● SEEDS Asia テクニカルアドバイザーの組成規約を定め、任命
緊急支援	N/A	● 実績なし

2020 年度計画の⑦緊急支援・避難者支援では、防災や緊急時の活動の担い手をネットワーク化するための基盤整備を目標とし、具体的には SEEDS Asia 事務局へのテクニカルアドバイザーの組成と協議の開始を設定していました。これに関し、理事会での制度設置規約の承認を経て、事務局が 1 名のアドバイザーに依頼・任命しました。さらに、災害支援の発動基準を定めました。今後は各分野で必要となるアドバイザーの任命を進めると共に、定められた発動基準に基づき 2030 年プランの目標達成に向けて取り組みます。

⑧ コミュニティ防災促進

2030 プラン	2030 年までに SEEDS Asia は、今後 30 年以内に 70%以上の確率で甚大な被害が予測されている「未災地」での活動を 5 か所で実施し、備えの強化を推進します。
----------	--

2020 年度	目標	実績
全体	<b><u>災害による被害が予測されている未災地での活動を展開する</u></b>	<b><u>未災地での活動を展開した</u></b>
ミャンマー	●ワーボチーボ村のコミュニティ防災の開始	●ワーボチーボ村にて学校と連携しコミュニティ防災を実施
フィリピン	●該当なし	●実績なし
バングラデシュ	●学校からコミュニティへのアプローチ	●北ダッカ市にて学校からコミュニティへのアプローチを実施
日本	●該当なし	●三重県鳥羽市の鳥羽小学校に対しカリキュラムマネジメントの研修を提供

2020 年度の⑧**コミュニティ防災促進**は、未災地でのコミュニティ防災活動展開を計画しており、ミャンマーとバングラデシュ、三重県鳥羽市立鳥羽小学校にて活動を展開しました。2030 年プランでは「2030 年までに、今後 30 年以内に 70%以上の確率で甚大な被害が予測されている未災地での活動を 5 か所」で実施することを目標として掲げており、2019 年度からの累計で 3 か所の実施（ミャンマー、バングラデシュ、鳥羽市）となり、達成度は 60%です。

成果物

発行者	タイトル	発行地	言語	表紙
冊子				
SEEDS Asia	丹波市市島町 人づくり事業 教材作成の歩み	日本	日	
SEEDS Asia	活動紹介パンフレット	バングラデシュ	英	
		オンライン	日	
SEEDS Asia	これからのまちについて考える 復興リレー講座 議事録集	日本	日	
UNDP (受託 作成)	Regional Guidelines for School Tsunami Preparedness (Myanmar version)	ミャンマー	緬	
動画				
SEEDS Asia	Training video on the disaster training and drill in the Model Academy	バングラデシュ	バングラ 英	n/a
応用インターナショナル (受託 作成)	Simple seismic evaluation for existing buildings in Myanmar	ミャンマー	英	
論文				
	なし			

公的機関冊子				
JICA Philippines	Annual Report 2019 "Fortifying the Future through Trusted Partnerships" (p. 42) <a href="https://www.jica.go.jp/philippine/english/office/others/c8h0vm0000d3hsdw-att/report_2019.pdf">https://www.jica.go.jp/philippine/english/office/others/c8h0vm0000d3hsdw-att/report_2019.pdf</a>	フィリピン	英	
外務省	White Paper on Development Cooperation / Japan's ODA White Paper 2019 <a href="https://www.mofa.go.jp/policy/oda/white/2019/html/main/02/02-03-07.html">https://www.mofa.go.jp/policy/oda/white/2019/html/main/02/02-03-07.html</a>	日本	英	

### 講師派遣実績

日付	主催者	実施場所	イベントタイトル	講演タイトル：内容	派遣講師名	対象	参加人数
7/13、7/20	神戸学院大学現代社会学部	オンライン	「社会貢献論II」「社会防災特別講義IV」	▼アジアで防災のリアル ▼マルチハザードに備えるために（地域力編）	大津山光子（事務局長）	大学生	40
8/17	神戸大学	オンライン	「教育開発評価論」	フィリピン共和国セブ州における草の根技術協力事業の事例	有馬 沙紀（海外・国内統括）	大学生・大学院生	20
9/16-9/18	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	気仙沼・オンライン	2020年度アクサユネスコ協会減災教育プログラム教員研修会	▼災害を乗り越え生き抜く力を育む防災・減災教育の方向性 ▼減災・防災教育推進のためのネットワーク構築の意義と方法	及川 幸彦（理事） 上田 和孝（アドバイザー）	全国の小中高教員	34
10/20	灘中学校	灘中学校	公民科授業：地域の活動から社会を知り、中学生として発信する	防災のリアルー不均衡なリスク分配と拡大再生産を防ぐためにー	大津山光子（事務局長）	中学生	15

12/1	東洋英和 女学院大 学国際社 会学部 教授 桜 井愛子先 生	オンライ ン	東洋英和女学 院大学国際社 会学部 教授 桜井愛子先生 ゼミ演習	▼「災害に負けない人 づくり・まちづくり— 『Build Back Better』はみんなのも の?」	大津山 光子（事 務局長）	東洋英和 女学院大 学国際社 会学部 教授 桜 井愛子先 生ゼミ生	20
1/7	鳥羽市立 鳥羽小学 校	鳥羽 市	防災講演会	▼カリキュラム・マネジメ ントをすすめるにあたって	岸田 蘭 子（テクニ カルアドバ イザー） 大津山 光子	鳥羽小学 校 教員	15
2/3	兵庫・国 際協力同 志の会 （HYOM IC）	JICA 関西、 オンライ ン	兵庫・国際協力 同志の会 （HYOMIC）ト ークイベント	▼災害に負けない人 づくり・まちづくり— 『BBB』はみんなのも の?—	大津山 光子（事 務局長）	一般	40
2/19	公益社団 体法人日本 ユネスコ協 会連盟	オンライ ン	2020 年度減災 教育フォーラム	▼実践発表に対する 助言と総括 ▼ 被災地の映像から 学ぶ減災教育 ▼パネルディスカッシ ョン、ファシリテーター	及川 幸 彦（理 事） 上田 和 孝（アド バイザー）	全国の小 中高校教 員	60

## 委員会等

2020 年度	神戸市教職員組合 神戸教育文化研究所	大津山光子（事務局長）
---------	--------------------	-------------

## 広報タスクフォース

2019 年度に理事、アドバイザー、事務局長で構成された「広報タスクフォース」作成の団体パンフレットを、2,000 部印刷致しました。

 <p><b>SEEDS Asiaの実績 (2006年度～2018年度)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10か国、13箇所</li> <li>52万人</li> <li>3,100万人</li> <li>1.7万人</li> </ul> <p><b>誰もが災害に巻き合う時代</b></p> <p>SEEDS Asia -防災で未来をつくる-</p>	 <p><b>防災で未来をつくる</b></p> <p>SEEDS Asiaは災害に負けない持続可能な社会を目指し、5つの「つながる」アプローチを軸に人づくり・まちづくりに取り組む防災専門NPOです</p> <p><b>「つながる」ことが防災?</b></p> <p><b>97.5%</b></p> <p><b>70%</b></p> <p>SEEDS Asiaが大切にしている5つの「つながる」アプローチ</p> <p>SEEDS Asiaは日本を含めたアジアにおいて、地域と学校の連携による包括的な防災事業をつつしてSDGsの達成に寄与します</p>
<p>成果物：団体パンフレット改訂版 外側 (二つ折)</p>	<p>成果物：団体パンフレット改訂版 内側</p>

## 国別・事業別報告

### 1) ミャンマー ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業（第3年次）

期間	2020年3月～2021年3月
パートナー	ミャンマー工学連盟（Fed.MES）
資金提供	日本外務省、日本及びミャンマーの市民
受益対象者	エヤワディ地域ヒンタダ地区ワーボチーボ村の学校教員（5）・児童（48）を含む地域住民（2,500） 計 2,500 人
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、より安全な建設の推進、防災指導員育成、防災管理体制強化・促進、コミュニティ防災の促進

#### SDGsとの関連



ワーボチーボ村に建設中の学校兼シェルター  
（避難棟は校舎棟向かって左側）



防災リーダー研修（応急処置）の様子

#### < 背景・課題 >

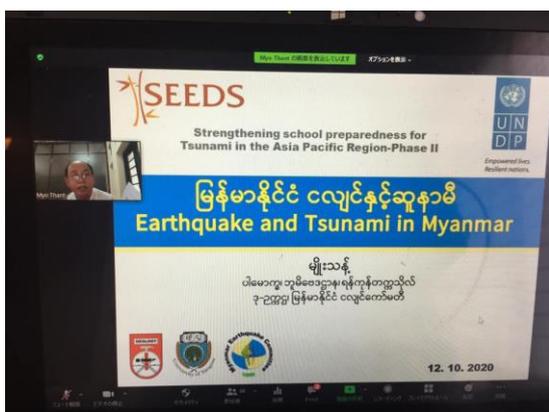
エヤワディ地域ヒンタダ地区は、ミャンマーの主要河川が分岐するデルタ地域の起点にあり、洪水の常襲地となっています。2015年の大洪水では、85,400人が被災し（ミャンマー情報管理ユニット、2015年）、過去にも堤防の決壊や越水で幾度もの大規模な洪水・浸食などの水災害に見舞われてきました。2016年にSEEDS Asiaとヤンゴン工科大学が共同で実施した湾岸地域の気候変動災害リスクに関する調査では、区内の251の小中高校（当時）のうち、21%が雨季に一時的に閉鎖することに加え、地域に安全な避難場所がないことが明らかになりました。そこで、SEEDS Asiaは3か年事業を通じて、教育と地域の防災拠点となる学校兼シェルターを建設し、避難所としての活用に向け、地域の人材育成を含めたハードとソフト双方を組み合わせた包括的な学校防災事業を推進しています。前年度のナバーゴン村での実績を踏まえ、さらなる横展開が求められていました。

<2020 年度の実績>

2020 年度はナバーゴン村と同じく、ヒンタダ地区の堤外地で洪水常襲地となっているワーボーチーボ村で学校兼シェルター建設を開始しました。新型コロナウイルスの影響を受け、工事が一時中断することがありましたが、工事関係者の隔離施設を竹構造で付設し、感染予防を万全にして工事を再開することで 70%の出来高を達成しました。加えて、人材育成については昨年度まで対面式の防災リーダー研修を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染予防・拡大防止策として、可能な限りオンラインを推進し、ヒンタダ県の社会福祉復興省及びミャンマー赤十字、農業灌漑局、消防局等と連携して災害対応能力強化に向けた活動を展開しました（直接裨益者数 294 人）。さらに、村の防災委員会メンバーを組成し、各世帯調査を経て、組織表や役割の協議をおこない、村の防災計画としてまとめる等、村と学校の協働による防災管理の強化を推進しています。

2) ミャンマー学校における津波避難訓練事業（第 2 フェーズ）

期間	2020 年 9 月～2020 年 11 月
パートナー	ミャンマー工学連盟（Fed.MES）、国連開発計画（UNDP）
資金提供	国連開発計画（UNDP）
受益対象者	エヤワディ地域：ラブタ地区ラブタ地区内 15 校 計 32 人
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、防災指導員育成、防災管理体制強化促進
SDGs との関連	



「地震のメカニズムとデルタ地域の津波リスク」について知見を共有したヤンゴン大学のモヨータン（Prof. Dr. Myo Thant）教授



エヤワディ地域大臣からの学校防災への提言書（Pledge of Commitment）への署名を含む津波防災ガイドブックのミャンマー語版

< 背景・課題 >

2,000 キロに及ぶ海岸線と広大なデルタ地帯を持つミャンマーは、津波被害の想定人口が 67 万人にものぼり、世

界第 7 位のリスク国と言われています（Prevention Web, 2013）。SEEDS Asia は国連開発計画（UNDP）が実施している「学校における津波避難訓練事業-第 1 フェーズ」のミャンマーにおけるプログラムのデザイン、実施、評価を担当し、災害リスク情報の整備・分析と避難訓練等の津波への啓発活動を 2017 年から 2018 年にかけて実施していました。こうした取り組みを全国対象校以外に広げていくための第 2 フェーズが開始され、津波避難の計画立案を担う学校防災委員会の組成と研修、ミャンマーの状況に合わせたアジア太平洋州のガイドライン翻訳や啓発ツールの作成を担うことになりました。

なお、同プログラムは東日本大震災の教訓を伝えるべく日本政府が支援をしており、アジア太平洋地域の 18 か国で展開されています。

### < 2020 年度の実績 >

SEEDS Asia は国連開発計画（UNDP）が実施している「学校における津波避難訓練事業（第 2 フェーズ）」のミャンマー事業の実施団体として、トレーナーの養成プログラムのデザイン、実施、評価の他、今後学校における津波防災を推進していくための政策提言、全国への啓発ツール作成と研修を担当しました。ミャンマー国内でも津波リスクが高いと言われているラブタ地区を事業対象地とし、災害リスクに鑑みながら地区教育長、県の社会福祉復興省と共同で 15 校を選出しました。各校の状況をオンラインと電話で調査した上で、国際防災の日と合わせ、ミャンマーの湾岸地域に位置するラブタ地区 15 校の教員とオンラインでつなぎ、学校の防災委員会の組成と避難計画概要を作成する研修を実施しました。

研修では、10 年以上に亘りミャンマー事業でご協力ご指導頂いているヤンゴン大学のミョータン教授（Prof. Dr. Myo Thant）から「地震のメカニズムとデルタ地域の津波リスク」についてご共有いただく等、科学と実践の相乗効果を計りました。また、政策提言として、エヤワディ地域大臣からの学校防災への提言書（Pledge of Commitment）への署名を取り付け、津波防災ガイドブックのミャンマー語版に加えました。また、11 月 5 日の世界津波の日には、2018 年に実施したビデオをミャンマー国営放送局（MRTV）にて放映の上、社会福祉復興省の FB ページを通じ全国に広く共有いただくこともできました。参加した教員の中には、2004 年インドネシア・スマトラ島沖地震の津波を経験した教員もあり、体験を共有すると共に、15 校で津波防災を推進する体制が整備されました。ミャンマー語のガイドラインと研修参加者を中心に、今後津波リスクの高い地域での共有が期待されています。

### 3) フィリピン セブ州における学校の防災管理推進支援事業

期間	2017年4月～2020年9月
パートナー	フィリピン国教育省、兵庫県教育委員会
資金提供	JICA 草の根技術協力事業 地域活性化特別枠
受益対象者	フィリピン国教育省第7 地方事務所及び事務所職員（11）、セブ州内の学校 教員（120）、児童生徒（5,000） 計 5,131 人
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、防災指導員育成、防災管理体制強化促進
SDGs との関連	



#### < 背景・課題 >

フィリピンは近年、2013年に死者6,000人を超える被害を出した台風ヨランダ（国際名ハイエン）など、大規模災害に見舞われています。2017年3月に終了したJICA 草の根技術協力事業「セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業」は防災教育に着目したものでしたが、本事業は、学校の管理面で災害の影響を小さくする「学校防災管理」に取り組んでいます。同国教育省は、国連など多くの国際機関が提唱する「包括的学  
校安全の枠組」に基づき学校防災に取り組んでいます。学校レベルでの実施・普及には時間が掛かる見込みで  
す。本事業では先行事業と同様に、学校防災の知見を持つ兵庫県教育委員会と連携し、学校防災管理の実  
践モデル構築を目指し支援しています。先述の枠組の3つの柱のうち2つに合致する先行事業の「防災教育」と  
本事業の「学校防災管理」を通じ、同国の学校における災害対応能力向上への相乗効果を測ります。

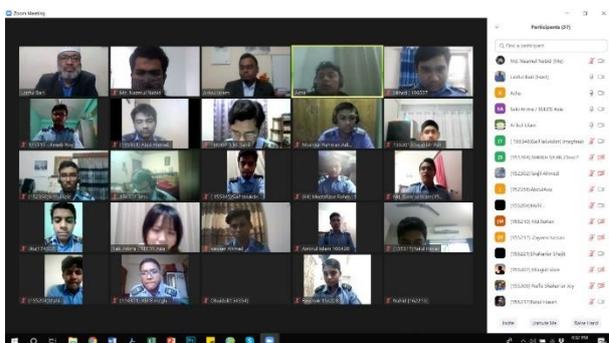
#### < 2020年度の実績 >

元々の事業終了は2020年度3月を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け事業期間を  
2021年9月まで延長しました。今年度は2019年度に作成を進めていたパイロット校10校の学校防災マニ  
ュアル2種類を印刷し、各校に届けました。本来であれば2020年2月に最終成果報告会（国レベルカンファレン  
ス）を開催する計画だったのですが、その後の日本及びフィリピンの感染者数増加に伴い、カンファレンスを開催する  
ことなく事業を終える運びとなりました。このカンファレンスは延期となりましたが、セブ州における3つ目の事業となる  
提案が採択されたことから、新型コロナが収束次第、3つ目の事業を開始し、今回実現しなかった本事業の成果の  
広い共有を図ります。

#### 4) バングラデシュ ダッカ市における住民の災害対応能力向上事業第（第1年次）

期間	2020年3月～2022年2月
パートナー	北ダッカ市（DNCC）
資金提供	日本外務省
受益対象者	学校運営委員会（15）、教員（5）、生徒（130）、地域住民（30） 計170人
SEEDS Asia 2030	防災/環境教育・啓発、防災指導員育成、防災管理体制強化促進、コミュニティ防災促進

#### SDGsとの関連



トレーニングを受けた教員（左上）による防災授業



防災訓練にてチームに分かれて動きを確認する学校防災委員会

#### < 背景・課題 >

バングラデシュは、長い歴史の中で地理的特徴からサイクロンや高潮など自然災害の影響を受けてきました。さらに近年の急激な人口増加と都市化により都市型災害のリスクが高まっています。北ダッカ市は災害に強いまちを作るための取り組みを進めているものの、住民が子どもの頃から防災について学ぶ機会がないため、災害に対応する能力及び住民が使用できる基礎的防災インフラが不足していることに加えて、市民が防災について情報や知識を得る機会がなく、その行動が災害の影響を悪化させていることなどから、主にソフト面で自助・共助による災害へのレジリエンスを高めることが喫緊の課題となっています。本事業では、2019年4月まで実施していた JICA 草の根技術協力事業のコミュニティ防災支援プロジェクトでは対象としてこなかった学校防災に取り組み、学校を地域の防災拠点とした災害対応における協力体制づくり、また地域の災害対応能力向上を支援します。

#### < 2020年度の実績 >

新型コロナの感染拡大を受け、集会の禁止や学校閉鎖などの制限が課され、本事業の活動も大きな影響を受けました。学校を中心とした防災モデルづくりを担当するモデルアカデミー校も閉鎖が長く続きましたが、学校防災委員会や防災授業を担当する防災指導教員へのトレーニングをなるべくオンラインに移行し、接触を避けながら教職員

の防災能力向上を図りました。同時にモデルアカデミー校には雨水タンクと消火システム、その他消火器などの防災資機材を導入し、水源が限られる北ダッカ市において校内に大きな規模の消火水を確保する初の試みとなりました。研修を受けた防災指導教員 12 名が 6 組に分かれ、トレーニングで身につけた知識を基に、生徒向け授業を実施しました。累計 482 名の生徒がオンラインで防災授業を受け、平均 85%の受講者が地域のハザードに関する正しい知識を身につけたことが証明されました。

事業終了前の 2 月 23 日には、雨水タンクと消火システムの活用トレーニング、地域との連携による防災訓練、最終成果報告会の 3 つの活動を合わせたイベントを開催しました。イベントに招待されたダッカ担当の教育事務所職員は「素晴らしい取り組みなのでダッカ内、そして市外の学校にも同様の活動を導入したい」と発言し、その場にいた他の参加者からは大きな拍手が送られました。また、学校の教職員は「これまで防災訓練や防災授業を実施したことがなかったが、これは子どもの命を守るために大変重要な活動だとわかった。今後は定期的な訓練と授業に取り組みたい」と事業を振り返りました。さらに、学校閉鎖により参加が叶わなかった生徒に対しては、イベント当日の様子を撮影したビデオ記録を提供し、防災教育の一環とします。

5) 日本 地域資源を活かした防災及び持続可能な社会の担い手育成ツールづくり事業

期間 2020年4月～2021年3月  
 パートナー ひょうごボランタリープラザ、ぼんぼ好  
 資金提供 ひょうごボランタリー基金助成事業・地域づくり活動 NPO 事業助成  
 受益対象者 丹波市住民（11）、ツアー参加者（3）  
 計 14 人  
 SEEDS Asia 2030 防災/環境教育・啓発  
 SDGs との関連



災害時助け合いゲームの振り返り



しいたけの菌打ちイベントの参加者

< 背景・課題 >

丹波市市島町は平成 26 年丹波豪雨で大きな被害を受けました。その経験を踏まえたスタディツアーやイベントを通じて、主に都市部の方々との交流につなげる取り組みを実施しています。今年度は、ひょうごボランタリープラザの NPO 向け助成事業を用いて、丹波市市島町の地縁団体である「ぼんぼ好（こ）」と協働で、市島町の豪雨災害の経験や自然と近い暮らしを地域資源として捉えた人づくり事業の強化を図りました。今年度は新型コロナの感染拡大を受け、イベントの開催・訪問の受入を積極的にすることはできませんでしたが、受入ができない期間を準備期間として捉え、これまでの活動で培った経験に基づき人づくり活動のカリキュラム化と学習ツールづくりを進めました。カリキュラムでは、様々な受入活動をレベル・カテゴリーに分け体系化することで、各活動の方向性を明確に位置付けリピーター参加につなげること、そして学習ツールでは、口頭ではなかなか伝わらない「助け合いの大切さ」について効果的に伝えられることを目指しました。

< 2020 年度の実績 >

市島町への訪問回数を抑えながらも、「ぼんぼ好」のメンバーの方々が持つ被災経験や災害時に役立つヒント、地域の名物などについてブレインストーミングをし、どのようなカリキュラムや学習ツールが実現可能かを洗い出しました。話し合いを受け、カリキュラムには初級・中級・上級のレベルと農・文化・森・減災防災の 4 つの活動カテゴリーを

掲載すること、そして学習ツールでは被災者がそれぞれ持つリソースと、困りごとをマッチさせるシミュレーションカードゲームを通じた助け合いの大切さ・備えの有効性を訴えかけることが決定しました。これらの経緯は冊子にまとめ、他地域でもそれぞれのユニークなカリキュラム及び学習ツールの作成を推進できる普及ガイドとして位置付けました。

## 6) 日本「With コロナ時代」の復興まちづくり支援事業

期間	2020年6月～2022年3月
パートナー	ジャパン・プラットフォーム（JPF）
資金提供	日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
受益対象者	長野県長野市長沼地区住民
SEEDS Asia 2030	防災指導員育成、緊急支援・被災者支援、コミュニティ防災の促進
SDGsとの関連	



長沼地区復興対策企画委員会へのタブレット端末の贈呈



第6回・7回復興リレー講座講師 菊田氏との打合せ

### < 背景・課題 >

2019年10月に発生した台風19号により甚大な被害を受けた長野県長野市長沼地区は、「魅力あるまち長沼 ここで生きていく」をスローガンに、災害後のまちづくりに取り組むため、復興対策企画委員会を設立しました。復興を目指すにあたり、先行事例を含む情報収集や住民1人1人との密な対話が欠かせませんが、新型コロナの感染拡大により、そういった取り組みは困難を極めています。一方、ジャパン・プラットフォームは「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき資金分配団体として平成元年台風15号・19号被災地支援をおこなっており、SEEDS Asiaはこの資金を活用して長沼地区の復興の実現を支援しています。

### < 2020年度の実績 >

オンラインでの情報収集と話し合いを実現するため、長沼地区復興対策企画委員会のメンバーに対してタブレット端末とポケットWiFiを提供しました。被災した住民の中には仮設住宅に住んでいる方々もいるため、遠隔でも話し

合いが進められるよう、委員会内でオンライン会議ツールの活用研修を実施するなど、即座に使用をしていただけました。また、まちづくりや災害復興に関する経験と知見をお持ちの専門家と連携し、これらの端末を用いオンラインのリレー講座への参加を促しました。講座では全 8 回にわたって、水と社会の関わり、災害後の住居の選択、千曲川の破堤、縮小社会における災害復興、景観を重視した復興まちづくり、地区復興計画の策定、防災センターの事例紹介など、様々なテーマについて各専門家からの事例紹介及び助言をいただきました。復興対策企画委員長からは、「それぞれの講座において長沼地区で適用可能な事例と、そうでない事例を学ぶことができた。いい部分を積極的に参考にして、今後の長沼地区のまちづくりに活かしたい」との感想がありました。

【認定】 特定非営利活動法人 SEEDS Asia  
事務局

〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本 1-7-7-307

Tel.: 078-766-9412

Fax.: 078-766-9413

Email: [rep@seedsasia.org](mailto:rep@seedsasia.org)

Website: <https://www.seedsasia.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/SEEDSASIA/>

# 決 算 報 告 書

第 15期

自 2020年 4月 1日

至 2021年 3月31日

特定非営利活動法人SEEDS Asia

兵庫県神戸市東灘区岡本1丁目7-7-307

# 貸借対照表

特定非営利活動法人SEEDS Asia  
全事業所

[税込] (単位:円)  
2021年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		未 払 金	3,940,274
現 金	28,996	前 受 金	83,040,067
普通 預金	102,484,402	預 り 金	151,127
現金・預金 計	102,513,398	未払法人税等	72,000
(売上債権)		流動負債合計	87,203,468
未 収 金	500,000	<b>負債合計</b>	<b>87,203,468</b>
売上債権 計	500,000	<b>正 味 財 産 の 部</b>	
(その他流動資産)		前期繰越正味財産	15,051,656
前 払 金	3,801,811	当期正味財産増減額	4,674,085
その他流動資産 計	3,801,811	<b>正味財産合計</b>	<b>19,725,741</b>
流動資産合計	106,815,209		
<b>【固定資産】</b>			
(投資その他の資産)			
敷 金	114,000		
長期貸付金	2,516,600		
貸倒引当金	△ 2,516,600		
投資その他の資産 計	114,000		
固定資産合計	114,000		
<b>資産合計</b>	<b>106,929,209</b>	<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>106,929,209</b>

# 財 産 目 録

特定非営利活動法人SEEDS Asia  
全事業所

[税込] (単位：円)  
2021年 3月31日 現在

## 《資産の部》

### 【流動資産】

(現金・預金)

現 金	28,996
普通 預金	102,484,402
三井住友銀行1 三宮支店	(10,729,304)
三井住友銀行2 岡本支店	(1,844,652)
三井住友銀行3 岡本支店	(925,501)
三井住友銀行4 岡本支店	(33,274,043)
三井住友銀行5 岡本支店	(7,210,741)
三井住友銀行6 三宮支店	(21,581,564)
ゆうちょ銀行099	(254,788)
BPI銀行1	(2,278,298)
BPI銀行2	(55,573)
PayPay銀行	(24,329,938)
現金・預金 計	<u>102,513,398</u>

(売上債権)

未 収 金	500,000
売上債権 計	<u>500,000</u>

(その他流動資産)

前 払 金	3,801,811
その他流動資産 計	<u>3,801,811</u>

流動資産合計

106,815,209

### 【固定資産】

(投資その他の資産)

敷 金	114,000
長期貸付金	2,516,600
貸倒引当金	<u>△ 2,516,600</u>
投資その他の資産 計	<u>114,000</u>

固定資産合計

114,000

資産合計

106,929,209

## 《負債の部》

### 【流動負債】

未 払 金	3,940,274
前 受 金	83,040,067
預 り 金	151,127
未払法人税等	<u>72,000</u>

流動負債合計

87,203,468

負債合計

87,203,468

正味財産

19,725,741

# 活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人SEEDS Asia

自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日

**【経常収益】**

正会員受取会費	100,000	
賛助会員受取会費	21,000	
受取寄付金	862,086	
受取助成金等	73,587,436	
事業 収益	8,511,886	
受取 利息	3,961	
為替 差益	226,103	
雑 収 益	758,321	
経常収益 計	758,321	84,070,793

**【経常費用】**

**【事業費】**

(人件費)

給料 手当	22,176,644	
法定福利費	1,662,356	
人件費計	23,839,000	

(その他経費)

業務委託費	5,101,280	
印刷 費	41,708	
旅費出張費	3,603,897	
通 信 費	591,780	
消耗品 費	814,171	
水道光熱費	67,311	
諸 会 費	190,000	
租 税 公 課	408	
研 修 費	13,000	
支払手数料	1,476,194	
現地事業費	38,031,393	
現地賃借費	2,602,357	
為替 差損	12,798	
雑 費	1	
その他経費計	52,546,298	

事業費 計

76,385,298

**【管理費】**

(人件費)

人件費計	0	
------	---	--

(その他経費)

水道光熱費	62,003	
地代 家賃	1,584,000	
保 険 料	4,030	
リース 料	120,630	
租 税 公 課	824,600	
その他経費計	2,595,263	

管理費 計

2,595,263

経常費用 計

78,980,561

当期経常増減額

5,090,232

**【経常外収益】**

経常外収益 計		0
---------	--	---

**【経常外費用】**

みなし寄付金	0	
過年度損益修正損	344,147	
経常外費用 計	344,147	

税引前当期正味財産増減額

4,746,085

法人税、住民税及び事業税

72,000

当期正味財産増減額

4,674,085

前期繰越正味財産額

15,051,656

次期繰越正味財産額

19,725,741